

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R8年 1月 21日		～ R8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	R8年 1月 21日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境、空間	事業所内の清掃・消毒を日常的に行い工具や備品の定期的な点検、洗浄を行うことで清潔で安全な環境づくりに努めている。活動スペースも規定より広く取っているため体を動かすプログラム等も室内で行うことが出来ている。	季節に応じた換気や温度管理、備品の入れ替え、環境改善に関するチェックリストの活用などを行い、継続的な環境改善を図っていく。また、児童の安心緩やリラックスにつながる環境づくりを検討し、より心地よい空間の提供を目指して行く。
2	こども一人一人に寄り添った支援	お子様一人ひとりの特性や気持ちに寄り添いながら、個性を尊重した関わりを心がけています。日々の遊びや活動の中で、「楽しい」「できた」が積み重なるように、支援の工夫を続けている。	「計画→実行→評価→改善」を常に行う。
3	保護者とのつながりを大切にした対応	保護者の方との日々のやり取りやご相談を通じて、家庭との連携を大切に支援を実施しています。お子様の成長や変化と一緒に見守り、共有できる関係作りを心がけている。	連絡帳や面談に加えて、電話やLINEなどを活用しながら、保護者の皆様が安心してやりとりができる環境づくりを進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会などの交流の機会	希望する保護者様が少ない、お仕事をされている保護者様が多く、日程調整が難しい。R7年度は親子参加型夏祭りを行い、交流の場を設けたが、中々交流中心の会にはならなかった。夏祭りのイベントが保護者同士の交流の機会としての認識に至らなかったと感じる。	参加してもらうだけでなく、話をする時間作りが必要だった。時間のとり方や、参加型ではなく、父母会として検討していきたい。
2	学童、児童館等地域との交流	児童館や、図書館、スーパーでのお買い物等で地域資源の活用、交流を行っている。保護者へはどんな目的でプログラムを組んでいるのかの共通理解が出来ていなかった。	保護者へ分かり易く図書館や、児童館を利用する意図等を発信していきたい。また、地域で行っているイベントに積極的に参加し交流を増やしていきたいと思う。
3	家族支援、ペアレントトレーニング等	ペアレントトレーニングに関する職員の専門性や経験に差があり、体系的な支援プログラムの実施に至っていない。個別相談どまりになってしまっている。	ペアレントトレーニングについては、職員研修及び支援マニュアルの整備を行い、段階的に実施体制の構築を図ってきたい。